

## 長唄正本にみる胡麻点の分類：単一胡麻の分類

矢向, 正人  
九州大学大学院芸術工学研究院コンテンツ・クリエイティブデザイン部門

新崎, 達貴  
九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻コンテンツ・クリエイティブデザインコース

<https://doi.org/10.15017/25728>

---

出版情報：芸術工学研究. 17, pp.153-167, 2012-11-28. 九州大学大学院芸術工学研究院  
バージョン：  
権利関係：



## 長唄正本にみる胡麻点の分類

## 単一胡麻の分類

Classification of Neumatic Symbol in *Nagauta* Play Text

## Classification of Single Neume

矢向正人<sup>1</sup>

YAKO Masato

新崎達貴<sup>2</sup>

ARASAKI Tatsuki

## Abstract

When examining *Nagauta* play texts published during the Edo period, many kinds of neumatic symbols are found on the right sides of proses. The *Nagauta* play texts that include these symbols are limited to those of *Nagauta* pieces that were first performed in public during the period from *Kyoho* era (1716-1735) to *An-ei* era (1772-1780). Since these neumatic symbols are similar with those seen in *Utai* libretto or *Heike* notation, they may have had notational information including pitch, duration, kind of voice, etc. However, meanings of these symbols have not been known until today. In this study the typical neumatic symbols appeared in 102 *Nagauta* play texts are examined. First, 172 kinds of neumatic symbols are extracted from these texts. They are roughly classified into three groups: single neume, compound neume, and deformed neume. Second, they are handwritten as bit-map representation. And lastly, they are classified and named based on form in full detail, respectively. In this paper, classification of 97 kinds of single neumes is discussed.

## 1. はじめに

長唄をはじめとする三味線音曲の詞章を記した本のうち、江戸時代に刊行された本を、正本と呼ぶ。長唄正本の他に、浄瑠璃各種の正本が知られる。正本を見ると、詞章の右側に、さまざまな長さを持ち直線及び曲線による記号が付されているのを目にする。これらの線状の記号は、胡麻もしくは胡麻点と呼ばれる。長唄正本の胡麻は、享保16年(1731)初演の《傾城無間の鐘》の正本に見いだされ、以後の正本でその数は増加していくが、安永期(1772~1781)に入ると減少し、安永7年(1778)以後の長唄正本に胡麻は確認できない<sup>1)</sup>。長唄正本の胡麻は、能の謡本の胡麻符や平家の墨譜と類似しているため、音高や音価の変化などの楽譜情報を持っていた可能性がある<sup>2)</sup>。

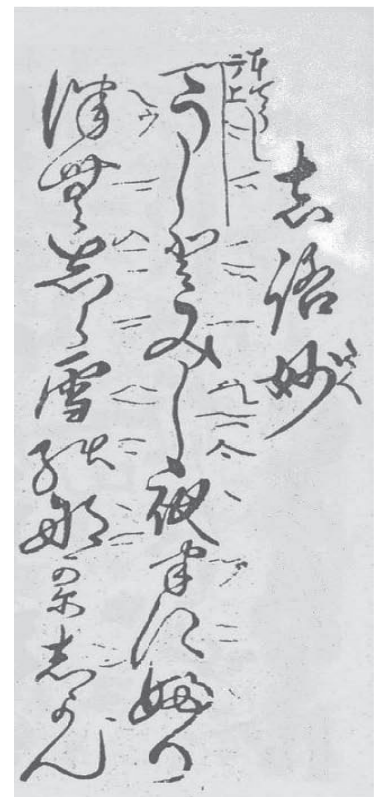


図1 長唄《白妙》の正本にみる胡麻

連絡先：矢向正人, yako@design.kyushu-u.ac.jp

<sup>1</sup>九州大学大学院芸術工学研究院コンテンツ・クリエイティブデザイン部門  
Department of Content and Creative Design, Faculty of Design, Kyushu University

<sup>2</sup>九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻コンテンツ・クリエイティブデザインコース

Content and Creative Design Course, Department of Design, Graduate School of Design, Kyushu University

長さ、太さなどが、音高、音価、唱法などの楽譜情報を持っていることが確認できれば、長唄の旋律研究は大きく前進する。しかし、先行研究から、その対応関係は見いだされていない。胡麻のカーブの向きをとりあげても、音高やその変化に対応するのか、拍や声の使い方を示すのか、多くの解釈が可能である<sup>3)</sup>。解釈を特定できない理由はいくつかあるが、もっとも大きな理由は、同一の胡麻が、曲目や正本により異なった意味に用いられていた可能性があることである。そのことは胡麻の形状や書き方が、曲目や正本によりかなり異なり、書き方にも統一性が見いだせないことからわかる。

## 2. 胡麻の分類

長唄正本のこうした研究状況を踏まえるなら、胡麻点の研究においては、解読を急ぐよりも、まずは正本にみ

られる多数の胡麻点の形状を整理分類することが先決である。胡麻の形状を整理しておけば、解読に役立つのみならず、他の種目の譜本の曲線記号と比較することもできる。そこで本稿は、長唄正本の胡麻の解読に先立つ予備的研究として、多数の胡麻を検討し、特徴的な胡麻についてビットマップデータとして手書き抽出した。そして、それらの形状を分類し形状にもとづいた名称を与えた。本稿では、次の長唄正本及び影印本を参照した。

- ・長唄正本集巻之一（大正6年）川上邦基編，演劇図書同好会刊
- ・古版長唄八種（昭和6年）稀書複製会編，米山堂刊
- ・長唄原本集成（昭和11年～14年）和田正畊之，山本桂一郎，木村捨三編，長唄原本集成刊行会刊より，巻一，二，三，四，五，六，七，十二，十四

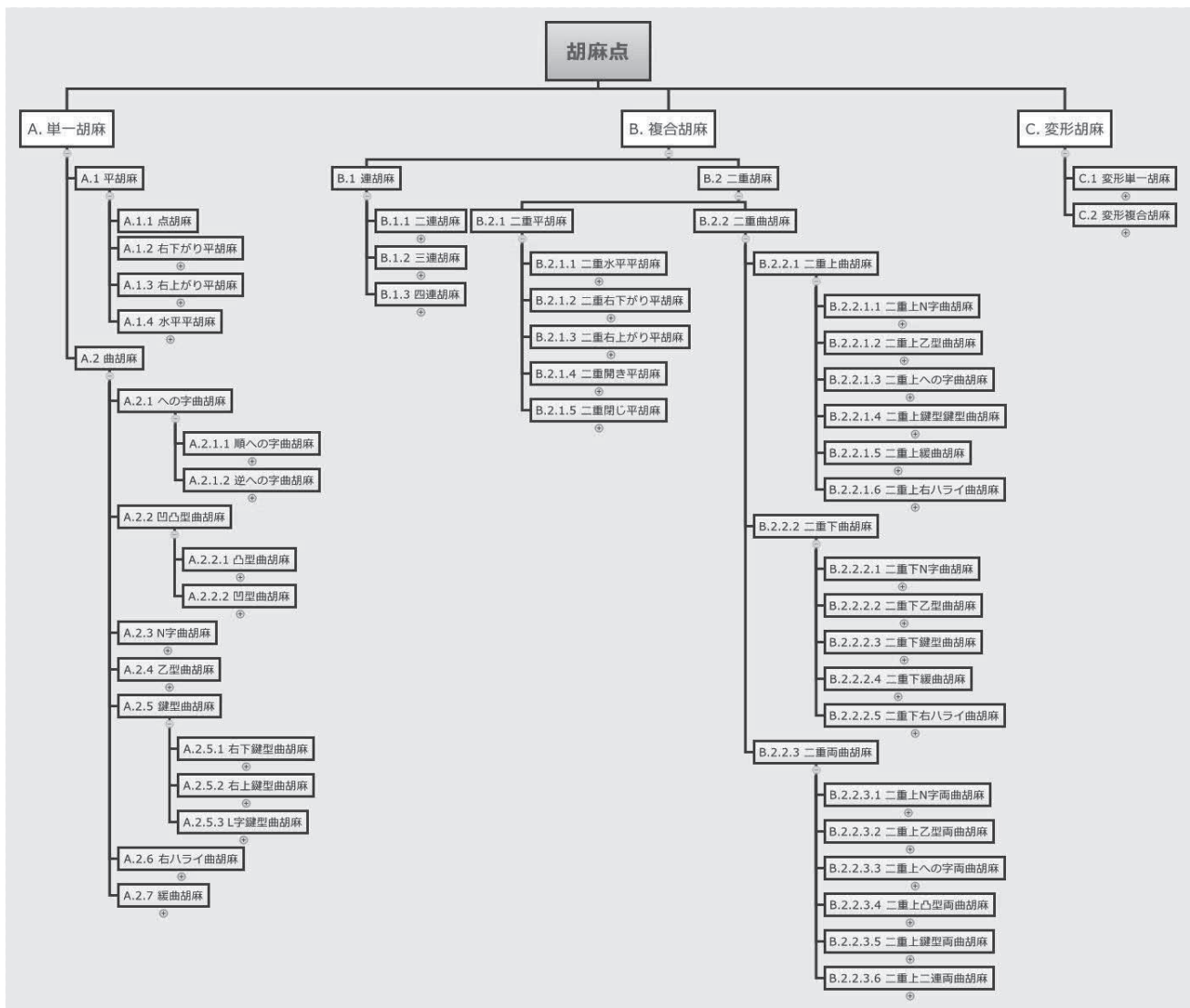


図2 長唄正本の胡麻の分類

- ・江戸長唄絵表紙正本，東京芸術大学図書館蔵，編集者不明，出版年代不明
- ・宝暦明和長唄めりやす集，東京芸術大学図書館蔵，高砂町，村山源三編，出版年代不明
- ・長唄めりやす集，東京芸術大学図書館蔵，編集者不明，出版年代不明

以上の長唄正本の中から，胡麻点が記されている享保16年（1731）から安永7年（1778）までの102曲の正本を検討した。各曲の正本にみる特徴的な胡麻から典型的な172種の胡麻を選び，それらの形状を比較し分類を行った。分類の概要を図2に示す。

検討した172種の胡麻は，1本で胡麻1つを形成する「単一胡麻」97種，2本以上がまとまって胡麻1つを形成する「複合胡麻」58種，特殊な形状を持つ「変形胡麻」17種に分類される<sup>4)</sup>。図3～図11は，そこからさらに詳細に分類を試みている。それぞれの胡麻の名称はすべて著者による。本稿では，このうち単一胡麻のみを解説する。分類は曖昧な点も含むが，その検討は4で行う。

### 3. 単一胡麻の分類

1本の線で形成されている単一胡麻はさらに，直線状である「平胡麻」と，単なる直線ではない「曲胡麻」に分類される。曲胡麻については，左腕，中軸，右腕の3つの部位に分割して認識した。部位それぞれの向きと長さ，つながり方，全体的な傾斜などに着目して曲胡麻の分類を進めた。左腕とも右腕とも捉え難い短い部位はハネ（少し飛び出た部位）とした。以下，それぞれの単一胡麻について，形状の特徴，名称，曲名を順に述べていく。小見出しのAは，図2中の単一胡麻に分類されることを示す。右矢印（→）は下位の階層への分岐を示す。もともと下位の階層には下線を記した。なお，本稿では，それぞれの胡麻について1例のみを例示したが，参照した長唄正本に同種の胡麻は数多く見出すことができる。

#### A.1 単一胡麻 → 平胡麻

単一胡麻のうち，1本の線で形成され，直線的な形状を持つものを「平胡麻」とする。平胡麻の分類において着目したのはその向きと長さである。平胡麻はその形状により「点胡麻」，「右下がり平胡麻」，「右上がり平胡麻」，「水平平胡麻」の4つに分類される。平胡麻は特に標準的な胡麻であり，この階層に属する胡麻は多くの正本で

確認された。

##### A.1.1 単一胡麻 → 平胡麻 → 点胡麻

平胡麻のうち，その向きや長さに特徴のない，点状の胡麻を<点胡麻（てんごま）>とする。この胡麻は<京鹿子娘道成寺道行（きょうがのこむすめどうじょうじみちゆき）>の正本で確認された。

##### A.1.2 単一胡麻 → 平胡麻 → 右下がり平胡麻

平胡麻のうち，右下がりの形状を持つ胡麻を「右下がり平胡麻」とする。以下，この階層に属する胡麻について述べる。

##### A.1.2.1 単一胡麻 → 平胡麻 → 右下がり平胡麻 → 右下長平胡麻

向きが右下がりであり長めの胡麻を<右下長平胡麻（みぎさがり ちょう ひらごま）>とする。この胡麻は<小夜あらし（さよあらし）>の正本で確認された。

##### A.1.2.2 単一胡麻 → 平胡麻 → 右下がり平胡麻 → 右下短平胡麻

向きが右下がりであり短めの胡麻を<右下短平胡麻（みぎさがり たん ひらごま）>とする。この胡麻は<髪すき妹背の鏡（かみすきいもせのかがみ）>の正本で確認された。

##### A.1.3 単一胡麻 → 平胡麻 → 右上がり平胡麻

平胡麻のうち，右上がりの形状を持つ胡麻を「右上が

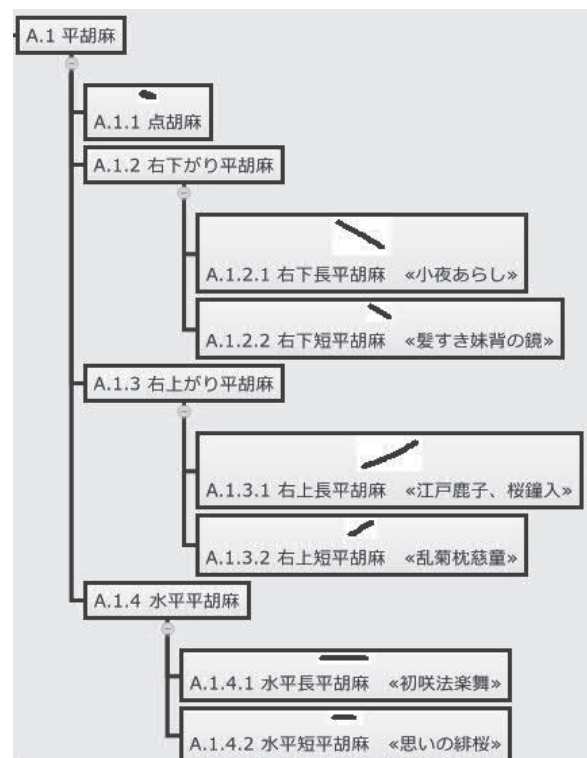


図3 平胡麻の分類

り平胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

**A.1.3.1 単一胡麻 → 平胡麻 → 右上がり平胡麻 → 右上長平胡麻**

向きが右上がり で長めの胡麻を<右上長平胡麻 (みぎあがり ちょう ひらごま)>とする。この胡麻は《江戸鹿子、桜鐘入 (えどがのこ、はるのかねいり)》の正本で確認された。

**A.1.3.2 単一胡麻 → 平胡麻 → 右上がり平胡麻 → 右上短平胡麻**

向きが右上がり で短めの胡麻を<右上短平胡麻 (みぎあがり たん ひらごま)>とする。この胡麻は《乱菊枕慈童 (らんぎくまくらじどう)》の正本で確認された。

**A.1.4 単一胡麻 → 平胡麻 → 水平平胡麻**

平胡麻のうち、水平な形状を持つ胡麻を「水平平胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

**A.1.4.1 単一胡麻 → 平胡麻 → 水平平胡麻 → 水平長平胡麻**

向きが水平で長めの胡麻を<水平長平胡麻 (すいへい ちょう ひらごま)>とする。この胡麻は《初咲法楽舞 (はつざきほうらくまい)》の正本で確認された。

**A.1.4.2 単一胡麻 → 平胡麻 → 水平平胡麻 → 水平短平胡麻**

向きが水平で短めの胡麻を<水平短平胡麻 (すいへい たん ひらごま)>とする。この胡麻は《思いの緋桜 (おもいのひざくら)》の正本で確認された。

**A.2 単一胡麻 → 曲胡麻**

単一胡麻のうち、1本の線で形成されるが、単なる直線的な形状でないものを曲胡麻とする。その形状は多岐にわたり、筆者はこの形状の類似に基づいて曲胡麻を「への字曲胡麻」、「凸型曲胡麻」、「N字曲胡麻」、「乙型曲胡麻」、「鍵型曲胡麻」、「右ハライ曲胡麻」、「緩曲胡麻」の7つに分類した。また、ここで左腕・中軸・右腕という言葉を用いたが、これは1つの胡麻を大きく3部分に分割したときの、それぞれの部位の名称である。

**A.2.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻**

曲胡麻のうち、基本的に左腕と右腕の2つの部位で形成され、その形状が「へ」の字に近いものを「への字曲胡麻」とする。への字曲胡麻の分類において着目したのは、左腕、右腕それぞれの長さや向き、つながり方、全体的な傾斜角度などである。また、への字曲胡麻はその

形状により「順への字曲胡麻」と「逆への字曲胡麻」の2つに分類される。

**A.2.1.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻**

への字曲胡麻のうち、上に凸のへの字の形状を持つ胡麻を「順への字曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

**A.2.1.1.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻 → 標準への字曲胡麻**

比較的バランスのとれたへの字の形状を持つ胡麻を<標準への字曲胡麻 (ひょうじゅん へのじ くせごま)>とする。この胡麻は《雪傘積恋歌 (ゆきのかさつもるこ

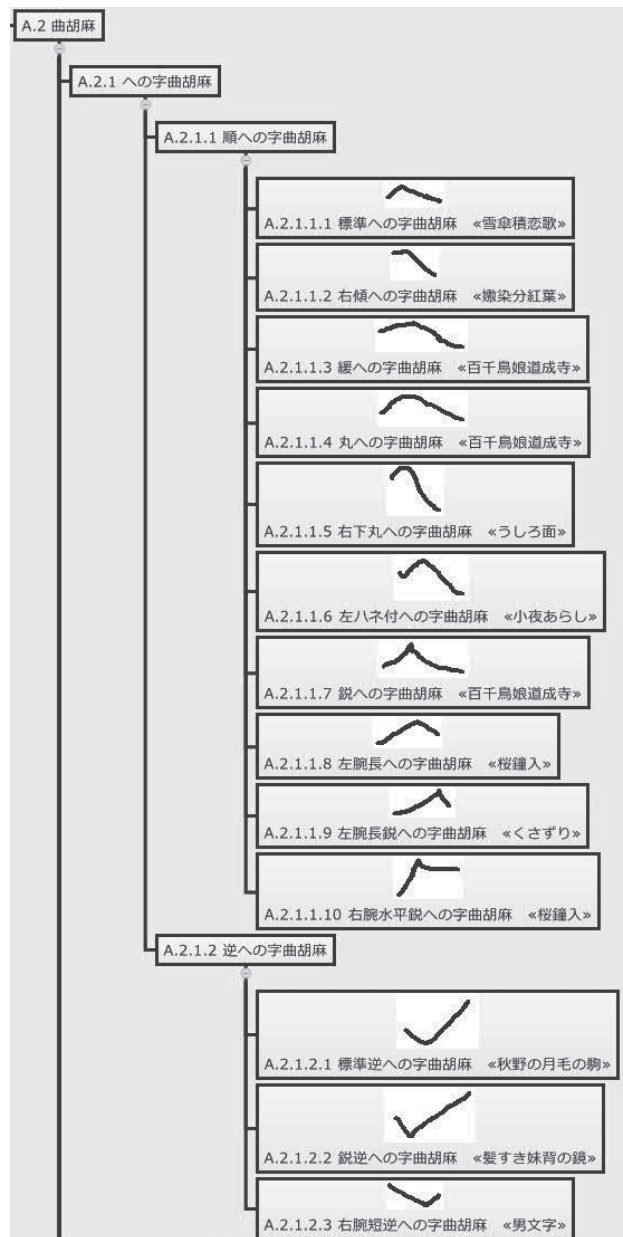


図4 への字曲胡麻の分類

いか) 》の正本で確認された。

A. 2. 1. 1. 2 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻 → 右傾への字曲胡麻

標準への字曲胡麻が右に傾いたような形状を持つ胡麻を<右傾への字曲胡麻(うけい へのじ くせごま)>とする。この胡麻は《嫩染分紅葉(うわなりそめわけもみじ)》の正本で確認された。

A. 2. 1. 1. 3 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻 → 緩への字曲胡麻

左腕から右腕にかけて緩やかなカーブを描き、への字の形状を持つ胡麻を<緩への字曲胡麻(かん へのじ くせごま)>とする。この胡麻は《百千鳥娘道成寺(ももちどりむすめどうじょうじ)》の正本で確認された。

A. 2. 1. 1. 4 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻 → 丸への字曲胡麻

左腕から右腕にかけて丸っぽい円を描き、への字の形状を持つ胡麻を<丸への字曲胡麻(まる へのじ くせごま)>とする。この胡麻は《百千鳥娘道成寺(ももちどりむすめどうじょうじ)》の正本で確認された。

A. 2. 1. 1. 5 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻 → 右下丸への字曲胡麻

左腕から右腕にかけて丸いカーブを描き、右腕が右下がりになり、への字の形状を持つ胡麻を<右下丸への字曲胡麻(みぎさがり まる へのじ くせごま)>とする。この胡麻は《うしろ面(うしろめん)》の正本で確認された。

A. 2. 1. 1. 6 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻 → 左ハネ付への字曲胡麻

左腕の左側に少し飛び出したような部位を持ち、への字の形状を持つ胡麻を<左ハネ付への字曲胡麻(ひだりはねつき へのじ くせごま)>とする。この胡麻は《小夜あらし(さよあらし)》の正本で確認された。

A. 2. 1. 1. 7 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻 → 鋭への字曲胡麻

左腕から右腕にかけて鋭く尖ったような部位を持ち、への字の形状を持つ胡麻を<鋭への字曲胡麻(えい へのじ くせごま)>とする。この胡麻は《百千鳥娘道成寺(ももちどりむすめどうじょうじ)》の正本で確認された。

A. 2. 1. 1. 8 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻 → 左腕長への字曲胡麻

左腕が比較的長く、への字の形状を持つ胡麻を<左腕長への字曲胡麻(さわんちょう へのじ くせごま)>と

する。この胡麻は《江戸鹿子、桜鐘入(えどがのこ、はるのかねいり)》の正本で確認された。

A. 2. 1. 1. 9 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻 → 左腕長鋭への字曲胡麻

左腕が比較的長く、左腕から右腕にかけて鋭く尖ったような部位を持ち、への字の形状を持つ胡麻を<左腕長鋭への字曲胡麻(さわんちょう えい へのじ くせごま)>とする。この胡麻は《くさずり》の正本で確認された。

A. 2. 1. 1. 10 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 順への字曲胡麻 → 右腕水平鋭への字曲胡麻

右腕が比較的的水平で、左腕から右腕にかけて鋭く尖ったような部位を持ち、への字の形状を持つ胡麻を<右腕水平鋭への字曲胡麻(うわんすいへい えい へのじ くせごま)>とする。この胡麻は《江戸鹿子、桜鐘入(えどがのこ、はるのかねいり)》の正本で確認された。

A. 2. 1. 2 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 逆への字曲胡麻

への字曲胡麻のうち、への字が上下反転し、下に凸の形状を持つ胡麻を「逆への字曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

A. 2. 1. 2. 1 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 逆への字曲胡麻 → 標準逆への字曲胡麻

逆への字曲胡麻のうち、バランスの良い形状をもつ胡麻を<標準逆への字曲胡麻(ひょうじゅん ぎゃくへのじ くせごま)>とする。この胡麻は《秋野の月毛の駒(あきののつきけのこま)》の正本で確認された。

A. 2. 1. 2. 2 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 逆への字曲胡麻 → 鋭逆への字曲胡麻

左腕から右腕にかけて鋭く尖った部位を持ち、への字が上下反転した形状を持つ胡麻を<鋭逆への字曲胡麻(えい ぎゃくへのじ くせごま)>とする。この胡麻は《髪すき妹背の鏡(かみすきいもせのかがみ)》の正本で確認された。

A. 2. 1. 2. 3 単一胡麻 → 曲胡麻 → への字曲胡麻 → 逆への字曲胡麻 → 右腕短逆への字曲胡麻

右腕が比較的短く、への字が上下反転した形状を持つ胡麻を<右腕短逆への字曲胡麻(うわんたん ぎゃくへのじ くせごま)>とする。この胡麻は《男文字(おとこもじ)》の正本で確認された。

A. 2. 2 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻

曲胡麻のうち、基本的に左腕と右腕の2つの部位で形

成され、上に凸、または下に凸の形状を持つ胡麻を「凹凸型曲胡麻」とする。凹凸型曲胡麻は、その形状により「凸型曲胡麻」と「凹型曲胡麻」の2つに分類される。凹凸型曲胡麻の分類において着眼したのは、左腕、右腕それぞれの長さ、つながり方、全体的な傾斜角度などである。

#### A.2.2.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凸型曲胡麻

凹凸型曲胡麻のうち、上に凸の形状をもつ胡麻を「凸型曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

##### A.2.2.1.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凸型曲胡麻 → 標準凸型曲胡麻

比較的全体のバランスがよく、凸型の形状を持つ胡麻を<標準凸型曲胡麻 (ひょうじゅん とつがた くせごま)>とする。この胡麻は<けいせい>の正本で確認された。

##### A.2.2.1.2 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凸型曲胡麻 → 丸凸型曲胡麻

左腕から右腕にかけて丸いカーブを描く部位を持つ凸型の曲胡麻を<丸凸型曲胡麻 (まる とつがた くせごま)>

>とする。この胡麻は<鐘入解脱衣 (かねいりげだつのきぬ)>の正本で確認された。

##### A.2.2.1.3 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凸型曲胡麻 → 右ハネ付丸凸型曲胡麻

右腕の右端に少し飛び出た部位を持ち、左腕から右腕にかけて丸いカーブを描く部位を持つ凸型の形状をした胡麻を<右ハネ付丸凸型曲胡麻 (みぎはねつき まるとつがた くせごま)>とする。この胡麻は<花錦嫩丹前 (はなにしきふたばたんぜん)>の正本で確認された。

#### A.2.2.2 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凹型曲胡麻

凹凸型曲胡麻のうち、下に凸の形状を持つ胡麻を凹型曲胡麻とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

##### A.2.2.2.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凹型曲胡麻 → 標準凹型曲胡麻

比較的全体のバランスがよく、凹型の形状を持つ胡麻を<標準凹型曲胡麻 (ひょうじゅん おうがた くせごま)>とする。この胡麻は<布袋 (ほてい)>の正本で確認された。

##### A.2.2.2.2 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凹型曲胡麻 → 左傾凹型曲胡麻

全体が左に傾いていて、凹型の形状を持つ胡麻を<左傾凹型曲胡麻 (さけい おうがた くせごま)>とする。この胡麻は<夜半のかね (よはのかね)>の正本で確認された。

##### A.2.2.2.3 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凹型曲胡麻 → 丸凹型曲胡麻

左腕から右腕にかけて丸くカーブを描く部位を持ち、凹型の形状を持つ胡麻を<丸凹型曲胡麻 (まる おうがた くせごま)>とする。この胡麻は<卵の花相の山 (うのはなあいのみやま)>の正本で確認された。

##### A.2.2.2.4 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凹型曲胡麻 → 緩丸凹型曲胡麻

左腕から右腕にかけて緩やかな丸いカーブを描く部位を持ち、凹型の形状を持つ胡麻を<緩丸凹型曲胡麻 (かんまる おうがた くせごま)>とする。この胡麻は<浦千鳥見女塩汲 (うらちどりみるめのしおくみ)>の正本で確認された。

##### A.2.2.2.5 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凹型曲胡麻 → 左ハネ付丸凹型曲胡麻

左腕の左端に少し飛び出た部位を持ち、左腕から右腕

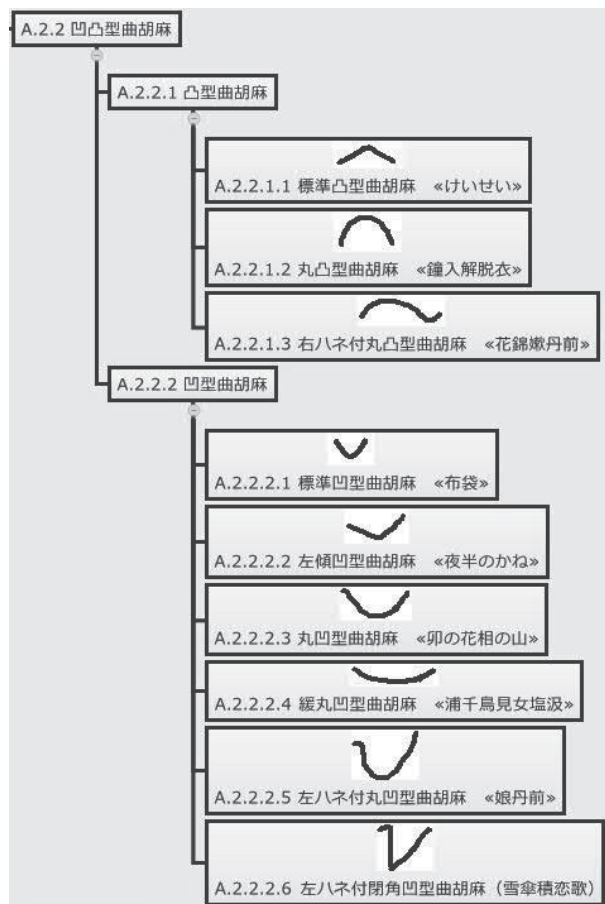


図5 凹凸型曲胡麻の分類

にかけて丸いカーブを描く部位を持つ、凹型の形状をした胡麻を<左ハネ付丸凹型曲胡麻 (ひだりはねつき まるおうがた くせごま)>とする。この胡麻は《娘丹前 (むすめたんぜん)》の正本で確認された。

**A.2.2.2.6 単一胡麻 → 曲胡麻 → 凹凸型曲胡麻 → 凹型曲胡麻 → 左ハネ付閉角凹型曲胡麻**

左腕の左端に少し飛び出た部位を持ち、左腕から右腕にかけての角度が鋭角であり、凹型の形状をした胡麻を<左ハネ付閉角凹型曲胡麻 (ひだりはねつき へいかくおうがた くせごま)>とする。この胡麻は《雪傘積恋歌 (ゆきのかさつもるこいか)》の正本で確認された。

**A.2.3 単一胡麻 → 曲胡麻 → N字曲胡麻**

曲胡麻のうち、基本的に左腕、中軸、右腕の3つの部位で形成され、その形状がアルファベットの「N」に近いものを「N字曲胡麻」とする。N字曲胡麻の分類において着眼したのは、左腕、中軸、右腕それぞれの長さや向き、及びそのつながり方などである。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

**A.2.3.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → N字曲胡麻 → 標準N字曲胡麻**

比較的全体のバランスがよく、N字の形状を持つ胡麻を<標準N字曲胡麻 (ひょうじゅん えぬじ くせごま)>とする。この胡麻は《男文字 (おとこもじ)》の正本で確認された。

**A.2.3.2 単一胡麻 → 曲胡麻 → N字曲胡麻 → 閉角N字曲胡麻**

左腕、中軸、右腕それぞれのなす角が鋭角であり、N字の形状を持つ胡麻を<閉角N字曲胡麻 (へいかく えぬじ くせごま)>とする。この胡麻は《瀧桜男雛形 (たきざくらおとこひながた)》の正本で確認された。

**A.2.3.3 単一胡麻 → 曲胡麻 → N字曲胡麻 → 右腕長閉角N字曲胡麻**

右腕が比較的長く、左腕、中軸、右腕それぞれのなす角が鋭角であり、N字の形状を持つ胡麻を<右腕長閉角N字曲胡麻 (うわんちょう へいかく えぬじ くせごま)>とする。この胡麻は《さぎむすめ》の正本で確認された。

**A.2.3.4 単一胡麻 → 曲胡麻 → N字曲胡麻 → 中軸長N字曲胡麻**

中軸が比較的長く、N字の形状を持つ胡麻を<中軸長N字曲胡麻 (ちゅうじくちょう えぬじ くせごま)>

とする。この胡麻は《うしろ面 (うしろめん)》の正本で確認された。

**A.2.3.5 単一胡麻 → 曲胡麻 → N字曲胡麻 → 丸N字曲胡麻**

左腕、中軸、右腕がそれぞれ丸いカーブを描いてつながり、N字の形状を持つ胡麻を<丸N字曲胡麻 (まる えぬじ くせごま)>とする。この胡麻は《秋野の月毛の駒 (あきののつきけのこま)》の正本で確認された。

**A.2.3.6 単一胡麻 → 曲胡麻 → N字曲胡麻 → 中軸縦長丸N字曲胡麻**

中軸が比較的縦に長く、左腕、中軸、右腕がそれぞれ丸いカーブを描いてつながり、N字の形状を持つ胡麻を<中軸縦長丸N字曲胡麻 (ちゅうじくたてなが まる えぬじ くせごま)>

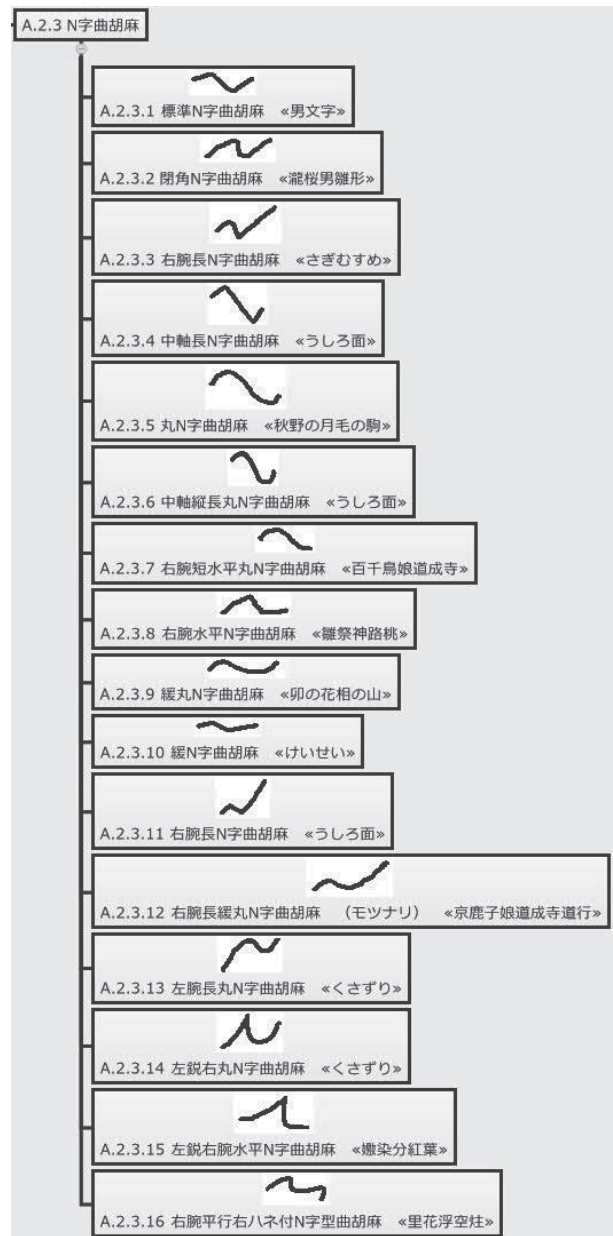


図6 N字曲胡麻の分類

ぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《うしろ面 (うしろめん)》の正本で確認された。

#### A. 2. 3. 7 単一胡麻 → 曲胡麻 → N 字曲胡麻 → 右腕短水平丸 N 字曲胡麻

右腕が比較的短く水平であり、左腕から右腕にかけて丸くカーブを描く部位を持ち、N 字の形状を持つ胡麻を<右腕短水平丸 N 字曲胡麻 (うわんたんすいへい まるえぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《百千鳥娘道成寺 (ももちどりむすめどうじょうじ)》の正本で確認された。

#### A. 2. 3. 8 単一胡麻 → 曲胡麻 → N 字曲胡麻 → 右腕水平 N 字曲胡麻

右腕が比較的の水平で、N 字の形状を持つ胡麻を<右腕水平 N 字曲胡麻 (うわんすいへい えぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《雛祭神路桃 (ひなまつりかみじのもも)》の正本で確認された。

#### A. 2. 3. 9 単一胡麻 → 曲胡麻 → N 字曲胡麻 → 緩丸 N 字曲胡麻

右腕、中軸、左腕がそれぞれ緩やかな丸いカーブを描いてつながり、N 字の形状を持つ胡麻を<緩丸 N 字曲胡麻 (かんまる えぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《卯の花相の山 (うのはなあいのみやま)》の正本で確認された。

#### A. 2. 3. 10 単一胡麻 → 曲胡麻 → N 字曲胡麻 → 緩 N 字曲胡麻

比較的全体のバランスがとれた、緩やかな N 字の形状を持つ胡麻を<緩 N 字曲胡麻 (かんえぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《けいせい》の正本で確認された。

#### A. 2. 3. 11 単一胡麻 → 曲胡麻 → N 字曲胡麻 → 右腕長 N 字曲胡麻

比較的右腕が長く、N 字の形状を持つ胡麻を<右腕長 N 字曲胡麻 (うわんちょう えぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《うしろ面 (うしろめん)》の正本で確認された。

#### A. 2. 3. 12 単一胡麻 → 曲胡麻 → N 字曲胡麻 → 右腕長緩丸 N 字曲胡麻

比較的右腕が長く、左腕、中軸、右腕それぞれ丸いカーブを描いてつながり、N 字の形状を持つ胡麻を<右腕長緩丸 N 字曲胡麻 (うわんちょう かんまる えぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《京鹿子娘道成寺道行 (きょうがのこむすめどうじょうじみちゆき)》の正本で確認された。

#### A. 2. 3. 13 単一胡麻 → 曲胡麻 → N 字曲胡麻 → 左腕長丸 N 字曲胡麻

比較的左腕が長く、左腕、右腕、中軸それぞれ丸いカーブを描いてつながり、N 字の形状を持つ胡麻を<左腕長丸 N 字曲胡麻 (さわんちょう まるえぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《くさざり》の正本で確認された。

#### A. 2. 3. 14 単一胡麻 → 曲胡麻 → N 字曲胡麻 → 左鋭右丸 N 字曲胡麻

左腕から中軸にかけて鋭く尖った部位を持ち、中軸から右腕にかけて丸いカーブを描く部位を持ち、N 字の形状をした胡麻を<左鋭右丸 N 字曲胡麻 (さえい うまるえぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《くさざり》の正本で確認された。

#### A. 2. 3. 15 単一胡麻 → 曲胡麻 → N 字曲胡麻 → 左鋭右腕水平 N 字曲胡麻

左腕から中軸にかけて鋭く尖った部位を持ち、右腕が比較的の水平であり、N 字の形状を持つ胡麻を<左鋭右腕水平 N 字曲胡麻 (さえい うわんすいへい えぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《嫩染分紅葉 (うわなりそめわけもみじ)》の正本で確認された。

#### A. 2. 3. 16 単一胡麻 → 曲胡麻 → N 字曲胡麻 → 右腕平行右ハネ付 N 字曲胡麻

右腕が比較的の平行であり、右腕の右端に少し飛び出た部位を持ち、N 字の形状をした胡麻を<右腕平行右ハネ付 N 字曲胡麻 (うわんへいこう みぎはねつき えぬじ くせごま) >とする。この胡麻は《里花浮空炷 (さとはなうのはのそらだき)》の正本で確認された。

#### A. 2. 4 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻

曲胡麻のうち、基本的に左腕、中軸、右腕の 3 つの部位で形成され、その形状が漢字の「乙」の字に近いものを「乙型曲胡麻」とする。乙型曲胡麻の分類において着眼したのは、左腕、右腕、中軸それぞれの長さ及び向き、つながり方、また全体的な角度などである。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

#### A. 2. 4. 1 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 標準乙型曲胡麻

比較的全体のバランスのとれた、乙型の形状を持つ胡麻を<標準乙型曲胡麻 (ひょうじゅん おつがた くせごま) >とする。この胡麻は《布袋 (ほてい)》の正本で確認された。

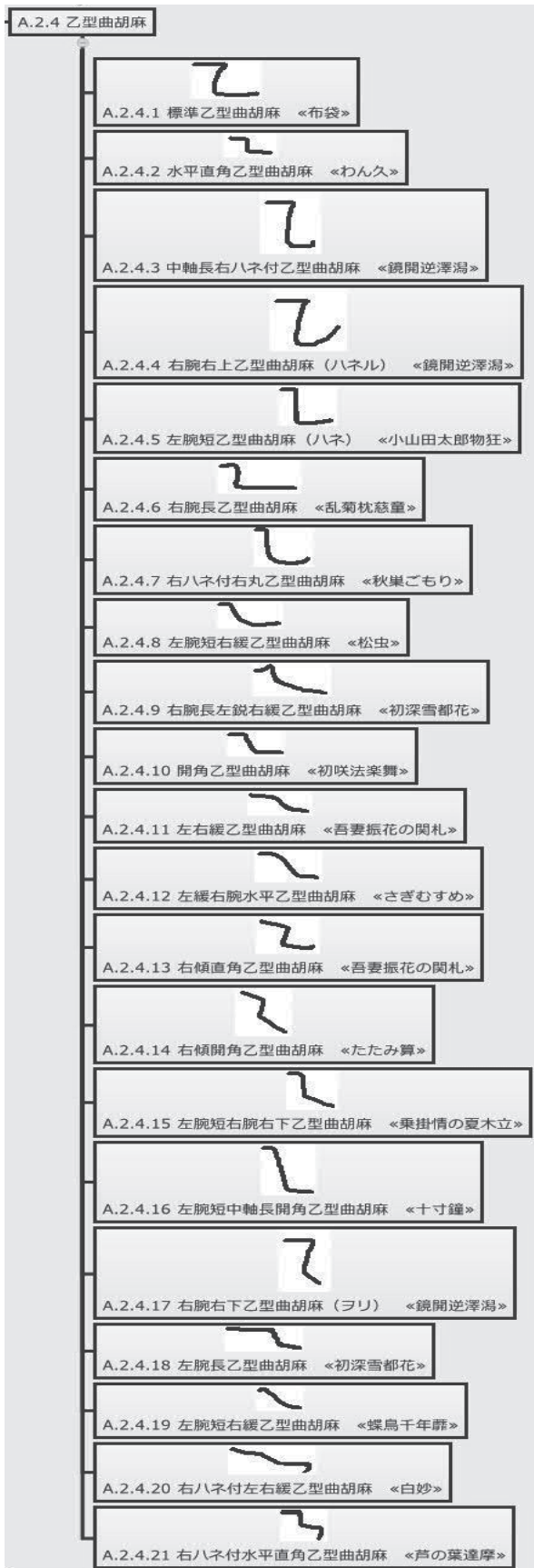


図7 乙型曲胡麻の分類

A.2.4.2 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 水平直角乙型曲胡麻

比較的左腕, 右腕それぞれが水平であり, 左腕, 中軸, 右腕それぞれのつながりがほぼ直角である, 乙型の形状をした胡麻を<水平直角乙型曲胡麻 (すいへい ちょっかく おつがた くせごま) とする。この胡麻は《わん久(わんきゅう)》の正本で確認された。

A.2.4.3 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 中軸長右ハネ付乙型曲胡麻

比較的中軸が長く, 右腕の右端に少し飛び出た部位を持つ, 乙型の形状をした胡麻を<中軸長右ハネ付乙型曲胡麻(ちゅうじくちょう みぎはねつき おつがた くせごま) >とする。この胡麻は《鏡開逆澤湯 (かがみびらき さかおもがた)》の正本で確認された。

A.2.4.4 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 右腕右上乙型曲胡麻

比較的右腕が右上がり, 乙型の形状を持つ胡麻を<右腕右上乙型曲胡麻 (うわんみぎあがり おつがた くせごま) >とする。この胡麻は《鏡開逆澤湯 (かがみびらき さかおもがた)》の正本で確認された。

A.2.4.5 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 左腕短乙型曲胡麻

比較的左腕が短く, 乙型の形状を持つ胡麻を<左腕短乙型曲胡麻 (さわんたん おつがた くせごま) >とする。この胡麻は《小山田太郎物狂 (おやまだたろうものぐるい)》の正本で確認された。

A.2.4.6 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 右腕長乙型曲胡麻

比較的右腕が長く, 乙型の形状を持つ胡麻を<右腕長乙型曲胡麻 (うわんちょう おつがた くせごま) >とする。この胡麻は《乱菊枕慈童 (らんぎくまくらじどう)》の正本で確認された。

A.2.4.7 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 右ハネ付右丸乙型曲胡麻

右腕の右端に少し飛び出た部位を持ち, 中軸から右腕にかけて丸くカーブを描く部位を持ち, 乙型の形状を持つ胡麻を<右ハネ付右丸乙型曲胡麻 (みぎはねつき うまる おつがた くせごま) >とする。この胡麻は《秋巢ごもり (あきのすごもり)》の正本で確認された。

A.2.4.8 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 左腕短右緩乙型曲胡麻

比較的左腕が短く, 中軸と右腕が緩やかなカーブを描

いてつながり、乙型の形状を持つ胡麻を<左腕短右緩乙型曲胡麻(さわんたん うかん おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《松虫(まつむし)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 9 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 右腕長左鋭右緩乙型曲胡麻**

比較的右腕が長く、左腕から中軸にかけて鋭く尖った部位を持ち、中軸と右腕が緩やかなカーブを描いてつながり、乙型の形状を持つ胡麻を<右腕長左鋭右緩乙型曲胡麻(うわんちょう さえい うかん おつがたくせごま)>とする。この胡麻は《初深雪都花(はつみゆきみやこのはな)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 10 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 開角乙型曲胡麻**

左腕、中軸、右腕それぞれのなす角が鈍角であり、乙型の形状を持つ胡麻を<開角乙型曲胡麻(かいかく おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《初咲法楽舞(はつぎきほうらくまい)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 11 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 左右緩乙型曲胡麻**

左腕と中軸、及び中軸と右腕、それぞれが緩やかなカーブを描いてつながり、乙型の形状を持つ胡麻を<左右緩乙型曲胡麻(さゆうかん おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《吾妻振花の関札(あづまふりはなのせきふだ)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 12 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 左緩右腕水平乙型曲胡麻**

左腕と中軸が緩やかなカーブを描いてつながり、右腕が比較的レベルで、乙型の形状を持つ胡麻を<左緩右腕水平乙型曲胡麻(さかん うわんすいへい おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《さぎむすめ》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 13 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 右傾直角乙型曲胡麻**

全体的に右に傾き、左腕、中軸、右腕それぞれのつながりが概ね直角であり、乙型の形状を持つ胡麻を<右傾直角乙型曲胡麻(うけい ちよっかく おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《吾妻振花の関札(あづまふりはなのせきふだ)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 14 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 右傾開角乙型曲胡麻**

全体的に右に傾き、左腕、中軸、右腕それぞれのつな

がり概ね鈍角であり、乙型の形状を持つ胡麻を<右傾開角乙型曲胡麻(うけい かいかく おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《たたみ算(たたみざん)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 15 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 左腕短右腕右下乙型曲胡麻**

比較的左腕が短く、右腕が右下がりになっていて、乙型の形状を持つ胡麻を<左腕短右腕右下乙型曲胡麻(さわんたん うわんみぎさがり おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《乗掛情の夏木立(のりかけなさけのなつこだち)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 16 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 左腕短中軸長開角乙型曲胡麻**

比較的左腕が短く、中軸が長く、左腕、中軸、右腕それぞれのなす角が鈍角である、乙型の形状をした胡麻を<左腕短中軸長開角乙型曲胡麻(さわんたん ちゅうじくちょう かいかく おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《十寸鏡(ますかがみ)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 17 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 右腕右下乙型曲胡麻**

右腕が右下がりになっていて、乙型の形状を持つ胡麻を<右腕右下乙型曲胡麻(うわんみぎさがり おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《鏡開逆澤瀉(かがみびらきさかおもがた)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 18 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 左腕長乙型曲胡麻**

比較的左腕が長く、乙型の形状を持つ胡麻を<左腕長乙型曲胡麻(さわんちょう おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《初深雪都花(はつみゆきみやこのはな)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 19 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 左腕短右緩乙型曲胡麻**

比較的左腕が短く、中軸と右腕が緩やかなカーブを描いてつながり、乙型の形状を持つ胡麻を<左腕短右緩乙型曲胡麻(さわんたん うかん おつがた くせごま)>とする。この胡麻は《蝶鳥千年藤(ちょうとりちとせのくさずり)》の正本で確認された。

**A. 2. 4. 20 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 右ハネ付左右緩乙型曲胡麻**

右腕の右端に少し飛び出た部位を持ち、左腕、中軸、右腕それぞれが緩やかなカーブを描いてつながり、乙型の形状をした胡麻を<右ハネ付左右緩乙型曲胡麻(みぎ

はねつき さゆうかん おつがた くせごま) >とする。この胡麻は《白妙(しろたえ)》の正本で確認された。

A.2.4.21 単一胡麻 → 曲胡麻 → 乙型曲胡麻 → 右ハネ付水平直角乙型曲胡麻

右腕の右端に少し飛び出た部位を持ち、左腕、右腕が概ね水平で、左腕、中軸、右腕それぞれのなす角が概ね直角であり、乙型の形状をした胡麻を<右ハネ付水平直角乙型曲胡麻(みぎはねつき すいへい ちょっかく おつがた くせごま) >とする。この胡麻は《芦の葉達摩(あしのはだるま)》の正本で確認された。

A.2.5 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻

曲胡麻のうち、基本的に左腕、右腕の2つの部位で形成され、その形状が、かぎかつこの「┌」に近いものを「鍵型」と呼び、その胡麻を「鍵型曲胡麻」とする。また、鍵型曲胡麻はその形状により「右下鍵型曲胡麻」、「右上鍵型曲胡麻」、「L字鍵型曲胡麻」の3つに分類される。鍵型曲胡麻の分類において着目したのは、左腕、右腕それぞれの長さや向き、そのなす角、および全体的な傾斜などである。

A.2.5.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻

鍵型曲胡麻のうち、右腕が下向きの形状を持つ胡麻を「右下鍵型曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

A.2.5.1.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻 → 左傾右下鍵型曲胡麻

全体的に左に傾き、右腕が下向きの鍵型の形状をした胡麻を<左傾右下鍵型曲胡麻(さけい みぎさがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《江戸鹿子、桜鐘入(えどがのこ、はるのかねいり)》の正本で確認された。

A.2.5.1.2 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻 → 閉角右下鍵型曲胡麻

左腕と右腕のなす角が鋭角であり、右腕が下向きの鍵型の形状をした胡麻を<閉角右下鍵型曲胡麻(へいかく みぎさがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《廊桜》の正本で確認された。

A.2.5.1.3 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻 → 右腕曲閉角右下鍵型曲胡麻

右腕に曲がっている部位を持ち、左腕と右腕のなす角が鋭角であり、右腕が下向きの鍵型の形状をした胡麻を<右腕曲閉角右下鍵型曲胡麻(うわんきよく へいかく

みぎさがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《初歌舞伎女花槍(はつかぶきおんなはなやり)》の正本で確認された。

A.2.5.1.4 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻 → 右腕長右下鍵型曲胡麻

比較的右腕が長く、右腕が下向きの鍵型の形状をした胡麻を<右腕長右下鍵型曲胡麻(うわんちょう みぎさがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《京鹿子娘道成寺道行(きょうがのこむすめどうじょうじみちゆき)》の正本で確認された。

A.2.5.1.5 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻 → 右腕長開角右下鍵型曲胡麻

比較的右腕が長く、左腕と右腕のなす角が鈍角であり、右腕が下向きの鍵型の形状をした胡麻を<右腕長開角右下鍵型曲胡麻(うわんちょう かいかく みぎさがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《姿の乱咲(すがたのみだれざき)》の正本で確認された。

A.2.5.1.6 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻 → 左腕長右下鍵型曲胡麻

比較的左腕が長く、右腕が下向きの鍵型の形状をした胡麻を<左腕長右下鍵型曲胡麻(さわんちょう みぎさが

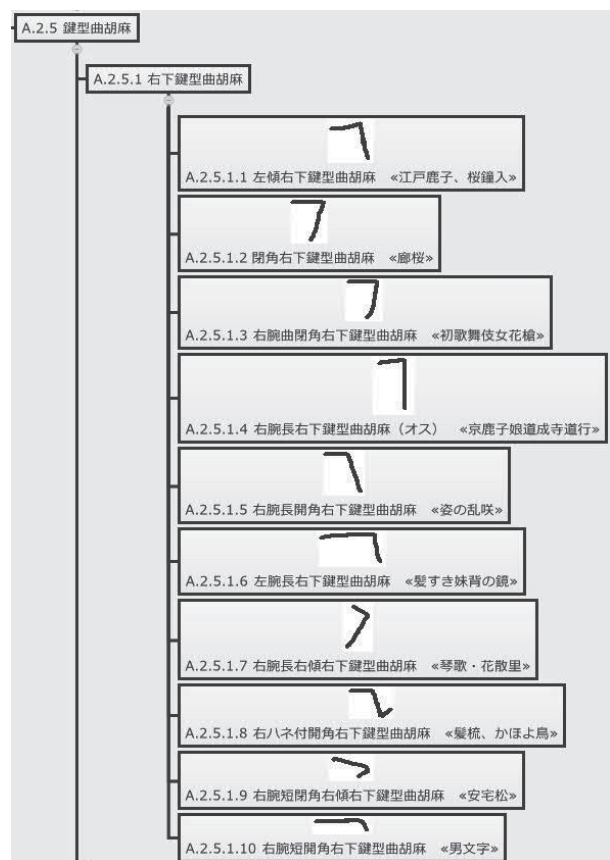


図8 右下鍵型曲胡麻の分類

りかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《髪すき妹背の鏡 (かみすきいもせのかがみ) 》の正本で確認された。

A. 2. 5. 1. 7 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻 → 右腕長右傾右下鍵型曲胡麻

比較的右腕が長く、全体的に右に傾いていて、右腕が下向きの鍵型の形状をした胡麻を<右腕長右傾右下鍵型曲胡麻(うわんちょう うけい みぎさがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《琴歌・花散里 (ことうた・はなちるさと) 》の正本で確認された。

A. 2. 5. 1. 8 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻 → 右ハネ付開角右下鍵型曲胡麻

右腕の右端に少し飛び出た部位を持ち、左腕と右腕のなす角が鋭角であり、右腕が下向きの鍵型の形状をした胡麻を<右ハネ付開角右下鍵型曲胡麻(みぎはねつき かいかく みぎさがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《髪梳, かほよ鳥 (かみすき, かほよどり) 》の正本で確認された。

A. 2. 5. 1. 9 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻 → 右腕短閉角右傾右下鍵型曲胡麻

比較的右腕が短く、左腕と右腕のなす角が鋭角であり、全体的に右に傾いていて、右腕が下向きの鍵型の形状をした胡麻を<右腕短閉角右傾右下鍵型曲胡麻(うわんたん へいかく うけい みぎさがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《安宅松 (あたかのまつ) 》の正本で確認された。

A. 2. 5. 1. 10 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右下鍵型曲胡麻 → 右腕短開角右下鍵型曲胡麻

比較的右腕が短く、左腕と右腕のなす角が鈍角であり、右腕が下向きの鍵型の形状をした胡麻を<右腕短開角右傾右下鍵型曲胡麻(うわんたん かいかく みぎさがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《男文字 (おとこもじ) 》の正本で確認された。

A. 2. 5. 2 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右上鍵型曲胡麻

鍵型曲胡麻のうち、右腕が上向きの形状を持つ胡麻を「右上鍵型曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

A. 2. 5. 2. 1 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右上鍵型曲胡麻 → 標準右上鍵型曲胡麻

比較的全体のバランスがよく、右腕が上向きの鍵型の形状をした胡麻を<標準右上鍵型曲胡麻(ひょうじゅん

みぎあがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《かきつばた》の正本で確認された。

A. 2. 5. 2. 2 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右上鍵型曲胡麻 → 閉角右上鍵型曲胡麻

左腕と右腕のなす角が鋭角であり、右腕が上向きの鍵型の形状をした胡麻を<閉角右上鍵型曲胡麻(へいかく みぎあがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《小夜あらし (さよあらし) 》の正本で確認された。

A. 2. 5. 2. 3 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右上鍵型曲胡麻 → 開角右上鍵型曲胡麻

左腕と右腕のなす角が鈍角であり、右腕が上向きの鍵型の形状をした胡麻を<開角右上鍵型曲胡麻(かいかく みぎあがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《無間の鐘—ひらがな盛衰記(むけんのかね—ひらがなせいすいき) 》の正本で確認された。

A. 2. 5. 2. 4 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右上鍵型曲胡麻 → 左腕右上開角右上鍵型曲胡麻

左腕が右上がり、左腕と右腕のなす角が鈍角であり、右腕が上向きの鍵型の形状をした胡麻を<左腕右上開角右上鍵型曲胡麻(さわんみぎあがり かいかく みぎあがりかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《乗掛情の夏木立(のりかけなさけのなつこだち) 》の正本で確認された。

A. 2. 5. 2. 5 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右上鍵型曲胡麻 → 左腕長左傾右上鍵型曲胡麻

比較的左腕が長く、全体的に左に傾き、右腕が上向きの鍵型の形状をした胡麻を<左腕長左傾右上鍵型曲胡麻

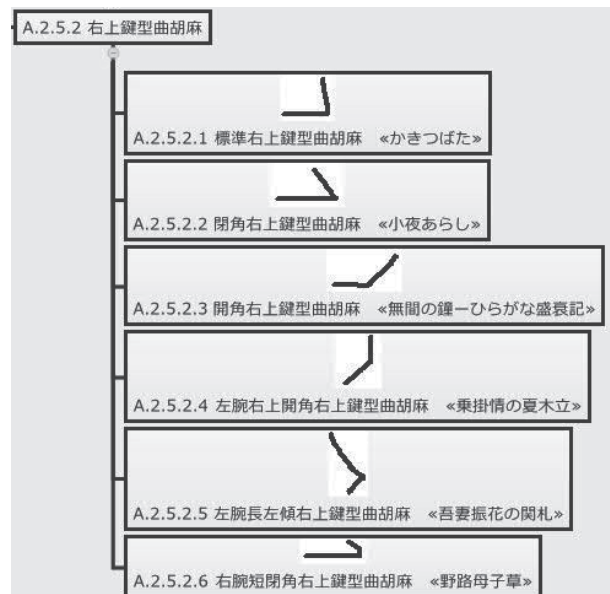


図9 右上鍵型曲胡麻の分類

(さわんちょう さけい みぎあがりかぎがた くせごま)  
>とする。この胡麻は《吾妻振花の関札 (あづまふりは  
なのせきふだ)》の正本で確認された。

A.2.5.2.6 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → 右  
上鍵型曲胡麻 → 右腕短閉角右上鍵型曲胡麻

比較的右腕が短く、左腕と右腕のなす角が鋭角であり、  
右腕が上向きの鍵型の形状をした胡麻を<右腕短閉角右  
上鍵型曲胡麻 (うわんたん へいかく みぎあがりかぎが  
た くせごま) >とする。この胡麻は《野路母子草 (のじ  
のははこぐさ)》の正本で確認された。

A.2.5.3 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L 字  
鍵型曲胡麻

鍵型曲胡麻のうち、その形状がアルファベットの「L」  
の字に近いものを「L 字鍵型」と呼び、その胡麻を「L  
字鍵型曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻に  
ついて述べる。

A.2.5.3.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L  
字鍵型曲胡麻 → 標準 L 字鍵型曲胡麻

全体的にバランスがよく、L 字鍵型の形状をした胡麻  
を<標準 L 字鍵型曲胡麻 (ひょうじゅん えるじかぎがた  
くせごま) >とする。この胡麻は《安宅松 (あたかのま  
つ)》の正本で確認された。

A.2.5.3.2 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L  
字鍵型曲胡麻 → 左傾 L 字鍵型曲胡麻

全体的に左に傾き、L 字鍵型の形状をした胡麻を<左  
傾 L 字鍵型曲胡麻 (さけい えるじかぎがた くせごま)  
>とする。この胡麻は《うしろ面 (うしろめん)》の正  
本で確認された。

A.2.5.3.3 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L  
字鍵型曲胡麻 → 右腕長左傾 L 字鍵型曲胡麻

比較的右腕が長く、全体的に左に傾き、L 字鍵型の形  
状をした胡麻を<右腕長左傾 L 字鍵型曲胡麻 (うわんち  
ょう さけい えるじかぎがた くせごま) >とする。この  
胡麻は《うしろ面 (うしろめん)》の正本で確認された。

A.2.5.3.4 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L  
字鍵型曲胡麻 → 開角 L 字鍵型曲胡麻

左腕と右腕のなす角が鈍角で、L 字鍵型の形状をした  
胡麻を<開角 L 字鍵型曲胡麻 (かいかく えるじかぎがた  
くせごま) >とする。この胡麻は《布袋 (ほてい)》の  
正本で確認された。

A.2.5.3.5 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L  
字鍵型曲胡麻 → 右ハネ付開角 L 字鍵型曲胡麻

右腕の右端に少し飛び出た部位を持ち、左腕と右腕の  
なす角が鈍角であり、L 字鍵型の形状をした胡麻を<右  
ハネ付開角 L 字鍵型曲胡麻 (みぎはねつき かいかく える  
じかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は《初咲法  
楽舞 (はつざきほうらくまい)》の正本で確認された。

A.2.5.3.6 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L  
字鍵型曲胡麻 → 左ハネ付 L 字鍵型曲胡麻

左腕の左端に少し飛び出た部位を持ち、L 字鍵型の形  
状をした胡麻を<左ハネ付 L 字鍵型曲胡麻 (ひだりはね  
つき えるじかぎがた くせごま) >とする。この胡麻は  
《二世のえん (にせのえん)》の正本で確認された。

A.2.5.3.7 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L  
字鍵型曲胡麻 → 左腕短開角 L 字鍵型曲胡麻

比較的左腕が短く、左腕と右腕のなす角が鈍角であり、  
L 字鍵型の形状をした胡麻を<左腕短開角 L 字鍵型曲  
胡麻 (さわんたん かいかく えるじかぎがた くせごま) >

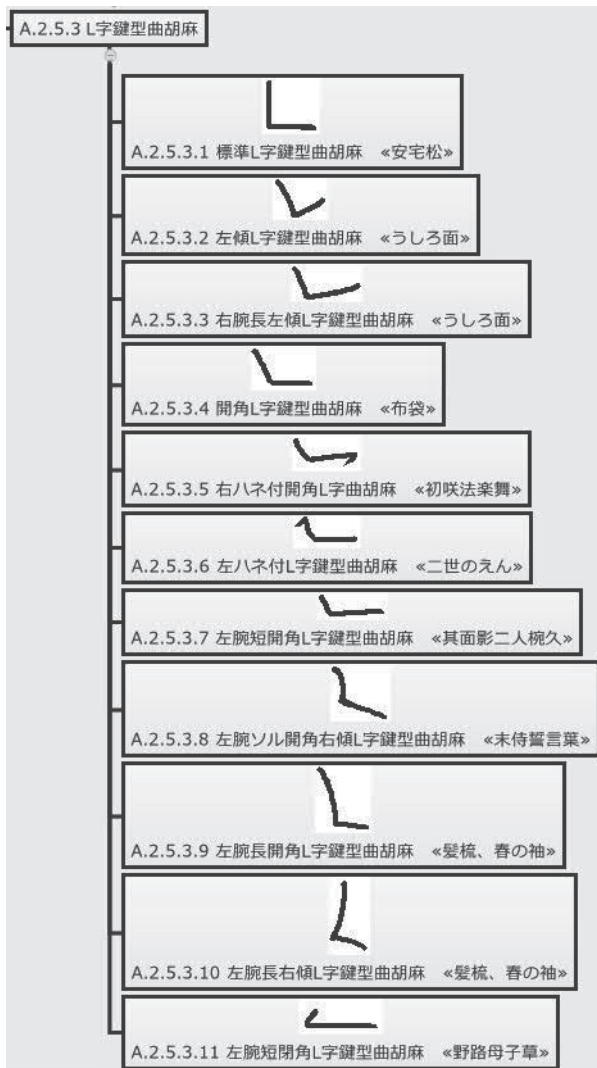


図 10 L 字鍵型曲胡麻の分類

とする。この胡麻は《其面影二人椀久（そのおもかげににんわんきゅう）》の正本で確認された。

**A.2.5.3.8 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L字鍵型曲胡麻 → 左腕ソル開角右傾L字鍵型曲胡麻**

左腕が反っているようなカーブを描き、左腕と右腕のなす角が鈍角であり、全体的に右に傾いていて、L字鍵型の形状をした胡麻を<左腕ソル開角右傾L字鍵型曲胡麻（さわんそる かいかく うけい えるじかぎがた くせごま）>とする。この胡麻は《末待誓言葉（すえかけてちかひのことは）》の正本で確認された。

**A.2.5.3.9 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L字鍵型曲胡麻 → 左腕長開角L字鍵型曲胡麻**

比較的左腕が長く、左腕と右腕のなす角が鈍角であり、L字鍵型の形状をした胡麻を<左腕長開角L字鍵型曲胡麻（さわんちょう かいかく えるじかぎがた くせごま）>とする。この胡麻は《髪梳、春の袖（かみすき、はるのそで）》の正本で確認された。

**A.2.5.3.10 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L字鍵型曲胡麻 → 左腕長右傾L字鍵型曲胡麻**

比較的左腕が長く、全体的に右に傾いていて、L字鍵型の形状をした胡麻を<左腕長右傾L字鍵型曲胡麻（さわんちょう うけい えるじかぎがた くせごま）>とする。この胡麻は《髪梳、春の袖（かみすき、はるのそで）》の正本で確認された。

**A.2.5.3.11 単一胡麻 → 曲胡麻 → 鍵型曲胡麻 → L字鍵型曲胡麻 → 左腕短閉角L字鍵型曲胡麻**

比較的左腕が短く、左腕と右腕のなす角が鋭角であり、L字鍵型の形状をした胡麻を<左腕短閉角L字鍵型曲胡麻（さわんたん へいかく えるじかぎがた くせごま）>とする。この胡麻は《野路母子草（のじのははこぐさ）》の正本で確認された。

**A.2.6 単一胡麻 → 曲胡麻 → 右ハライ曲胡麻**

曲胡麻のうち、右に払ったような右下りの曲線的形状を持つ胡麻を「右ハライ曲胡麻」とする。以下、この階層に属する胡麻について述べる。

**A.2.6.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → 右ハライ曲胡麻 → 標準右ハライ曲胡麻**

比較的全体のバランスがよく、右に払ったような形状を持つ胡麻を<標準右ハライ曲胡麻（ひょうじゅん みぎはらい くせごま）>とする。この胡麻は《雛祭神路桃（ひなまつりかみじのもも）》の正本で確認された。

**A.2.6.2 単一胡麻 → 曲胡麻 → 右ハライ曲胡麻 → 左ハネ付右ハライ曲胡麻**

左腕の左端に少し飛び出た部位を持ち、右に払ったような形状を持つ胡麻を<左ハネ付右ハライ曲胡麻（ひだりはねつき みぎはらい くせごま）>とする。この胡麻は《末待誓言葉（すえかけてちかひのことは）》の正本で確認された。

**A.2.6.3 単一胡麻 → 曲胡麻 → 右ハライ曲胡麻 → 左右ハネ付右ハライ曲胡麻**

左腕、右腕それぞれの両端に少し飛び出た部位を持ち、右に払ったような形状を持つ胡麻を<左右ハネ付右ハライ曲胡麻（さゆうはねつき みぎはらい くせごま）>とする。この胡麻は《姿の乱咲（すがたのみだれざき）》の正本で確認された。

**A.2.7 単一胡麻 → 曲胡麻 → 緩曲胡麻**

曲胡麻のうち、ほぼ直線的であるが緩やかなカーブを描いた形状を持つ胡麻を「緩曲胡麻」とする。なお、この胡麻は現在1種しか確認できていない。

**A.2.7.1 単一胡麻 → 曲胡麻 → 緩曲胡麻 → 標準緩曲胡麻**

緩曲胡麻は現在1種しか確認できていないため、この胡麻を<標準緩曲胡麻（ひょうじゅん かん くせごま）>とする。この胡麻は《花錦嫩丹前（はなにしきふたばたんぜん）》の正本で確認された。

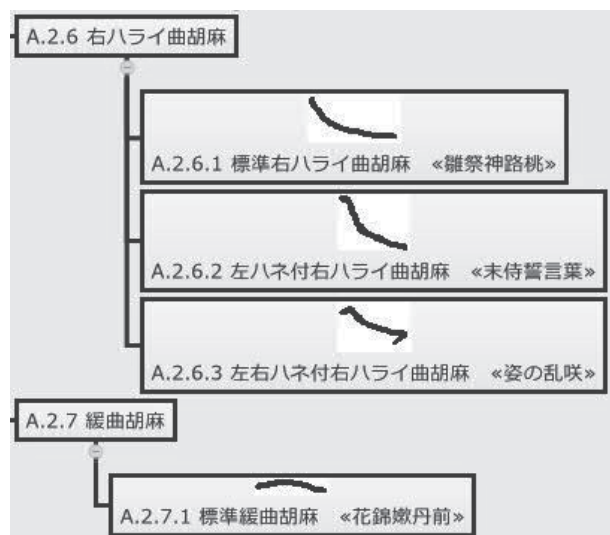


図11 右ハライ曲胡麻と緩曲胡麻の分類

#### 4. 胡麻の分類の検討

本稿の分類はすべて、胡麻の形状の見た目による分類にもとづいている。何ミリ以上をハネとする、傾斜角何度以上を傾いているとするなどの基準は定めていない。したがって、分類が曖昧さを持つことは否定できない。しかし、胡麻が手書きで描かれたものであり、またそれを見て演奏が行われていた事実がある以上は、見た目に即した胡麻形状の分類が、まずは必要であると考ええる。

なお、本稿の分類において生じている曖昧さは、分岐を詳細にするのに応じて生じやすくなっている。たとえば、胡麻を単一胡麻に分類するときには、その基準は明確であり、曖昧さはない。しかし、単一胡麻を、平胡麻、曲胡麻の2つに分類するときには、やや主観的な判断が入り、多少の曖昧さが生じている。さらに、曲胡麻を、への字、凹凸型、N字、乙型、鍵型、右ハライ、緩曲胡麻の7つに分類するときには、曖昧さが増える。たとえば、N字曲胡麻と乙型曲胡麻の中には、どちらに分類すべきか迷うほどの、境界的な形状を持つ胡麻も多く存在した。そこで、左腕が右上がりである曲胡麻をN字に分類し、左腕が平行もしくは右下がりである曲胡麻を乙型に分類する基準を設けた。しかし、この基準に忠実に分類を行うと、見た目には乙型であるがN字に属してしまう胡麻や、またその逆も存在する。これらの胡麻については、基準と見た目の形状の両者を判断して分類を行った。同様の曖昧さは、への字曲胡麻と凸型曲胡麻の類

似、凹型曲胡麻とL字鍵型曲胡麻の類似などにも見られた。曲胡麻の分類に際しては、このように生ずる曖昧さを考慮に入れたうえ、曖昧さにより分類が成り立たなくなる限界まで階層を下位に分岐させた。

#### 5. おわりに

本稿では、長唄正本にみる単一胡麻 97 種の分類を示した。検討した胡麻については、類似する線状の記号を、まだ参照していない多数の長唄正本、及び他の種目の譜本に探ることにより、本稿の分類をより客観的なものにしていきたいと考える。複合胡麻 58 種及び変形胡麻 17 種については別の機会に論じたい。なお、分類された単一胡麻の形状は、音高、音価、唱法などの楽譜情報を持っている可能性がある。これらの楽譜情報についての音楽学研究も、これからの課題である。

#### 注

- 1) 矢向正人「長唄正本の注記の研究：現行譜と照合して意味をさぐる」『デアルテ』21, 2005, 133-160.
- 2) 薦田治子『平家の音楽：当道の伝統』第一書房, 2003.
- 3) 矢向正人「標準データ記述言語を用いた未解説楽譜の認識と記述」『音楽学』52(2), 2007, 122-138.
- 4) 蒲生美津子は、早歌の譜本に見られる胡麻の形状を、単拍胡麻、複拍胡麻、単複不分明の胡麻の3つに分類している。蒲生美津子『早歌の音楽的研究』三省堂出版, 1983, 137-139. しかし、この分類は、胡麻の本数が拍数と対応することを前提とした分類である。本稿では、分類を胡麻の形状のみに収束させるため、単一胡麻、複合胡麻、変形胡麻とした。